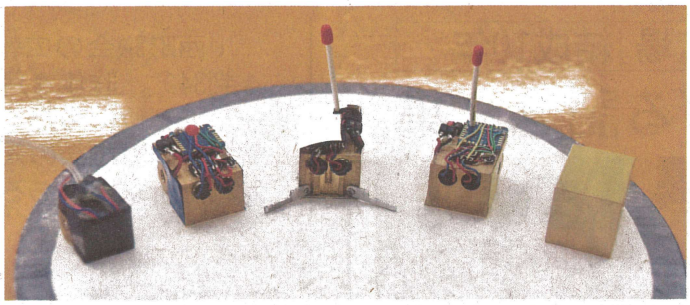
消しゴム大のロボットを相撲で対決させる国際マイクロメカニズムコンテスト無線部門で、山形電波工業高（天童市、高橋健二校長）の生徒が優勝、準優勝を飾った。学校として3年連続のワン、ツーで「ロボット相撲界の横綱」の地位を不動にした。4月から創学館高に校名変更となり「新たな歴史を刻んでいきたい」と意気込む。



ユニークなミニ相撲ロボット。右端の真ちゅうを削って作る

山形電波工高 無敵の横綱

国際ミニロボット相撲 Vと準V

「創学館」に 歴史刻み続ける決意

ロボットは2㌢×2㌢×3㌢の直方体に収まり、重さ45㌘以下が条件。無線で操縦し、直径20㌢の土俵で戦う。精密工学会が主催し11回目。17日に東京の中央大後楽園キャンパスで開かれた。30台がエントリー。国内やアジア各国の大学生の活躍が目立ち、高校生は出場も珍しい。同校からCSC（コンピューター・システム・クラブ）部員と顧問の大坂友人教諭(32)が出場。真ちゅうを削り、高度な性能を詰め込んだ自作ロボットで挑んだ。

2年高梨恵輔さん(17)のロボットは、左右に広がるアームが特徴で「速さを犠牲にしたぶん力が強い」。操作性の良さが光り、見事優勝を果たした。1年川村健人さん(16)はこれとは真逆の発想で速さを重視し、相手の横や後ろを取る狙いが奏功し準優勝に。正面部分に傾斜を設け、相手を倒す細工を施した1年木村智哉さん(16)は3位決定戦で敗れ、技術賞（4位）になった。

おととしは教諭を含めての表彰台独占、去年は生徒のみで総なめする快挙を果たした同校勢。強さの秘密について、大坂教諭は「どうやったら全国を取れるのかを大会で感じ取り、引き継いできた結果」と話す。ちなみに今回、大坂教諭は有線部門で3連覇を飾ったものの、無線では「もう余力がなく1回戦で負けました」。

9月には、3㌔のマシンを駆使する全日本ロボット相撲大会の地区予選が始まる。新校名に引き継ぐ形で、東北大会では自立型は6連覇、ラジコン型は3連覇が懸かるが、今大会から北海道も統合され、ハードルは一段と高まった。高梨さんは「先輩から教わったことを生かして頑張りたい」と決意を込めた。

ロボットを操作する右から高梨恵輔さん、木村智哉さん、川村健人さん
＝天童市・山形電波工業高